

博士学位論文審査結果の概要

ふりがな	てらい りえこ 寺井 梨恵子
氏名	
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	博第 20 号
学位授与年月日	平成 31 年 3 月 16 日
学位論文題目	転倒リスク場面における看護師の臨床判断能力と眼球運動との関連
審査委員	主査 石川県立看護大学 教授 川島 和代 副査 石川県立看護大学 教授 長谷川 昇 副査 石川県立看護大学 教授 亀田 幸枝 副査 石川県立看護大学 教授 丸岡 直子
<h3 style="margin: 0;">審査結果の概要</h3> <p style="margin: 10px 0;">本論文は、転倒リスク場面における看護師の臨床判断能力と眼球運動との関連を明らかにすることを目的に、3つの研究で構成され、質的・量的研究の双方からアプローチする混合研究法（トライアングレーションデザイン データ変換モデル）を用いて検証を試みている。学生は、今までに看護師や看護学生を対象に、転倒リスク場面における視覚情報に基づくアセスメント能力について検討してきたが、看護師の属性による比較ではなく、臨床判断能力を評価することの必要性に着目した。その研究疑問を発展させ「看護師の視覚情報から転倒リスクをアセスメントし、ケアを決定するまでの臨床判断能力のルーブリック」を開発し、看護場面という複雑な課題の評価に適したパフォーマンス評価の方法を示したことが本研究の独創的なところである。さらに、「転倒リスクをアセスメントし、ケアを決定するまでの臨床判断能力（熟達度）と眼球運動」との関連性を検討し、転倒予防に資する教育上の示唆を得られたことは有意義である。</p> <p style="margin: 10px 0;">学生は、研究遂行する上で、国内外の文献検討を綿密に行い、専門家らとともに臨床判断ルーブリックを独自に開発している。特にルーブリックを開発するうえで、「観点」と「質的転換点」を見出したのは今後の看護師の臨床判断能力を評価する上で大いに有用である。そのルーブリックスコアの高低をもとに眼球運動との関連を検討している。ルーブリックスコアの高低と眼球運動との関連性では有意な差は認めなかったが、パフォーマンス課題の動的な転倒リスク場面の違いにより、注視する部位の差異を明らかにしており、新たな知見を見出せたと判断できる。</p> <p style="margin: 10px 0;">ルーブリック作成時の信頼性の検証方法や作成したルーブリックを指標とした眼球運動との関連性の検討に関する審査員の疑問に、学術的な裏付けを踏まえた自らの意見を論理的に展開し討論できていた。今後の展望では、異なる対象や同一対象に対する縦断的な評価によって長期的ルーブリックの開発や教育評価への活用可能性についても言及し、論文の完成度を高めることが出来た。</p> <p style="margin: 10px 0;">本学生はさまざまな看護教育や臨床の場で活用できるパフォーマンス評価を開発できる研究能力を有し、今後の発展が期待できる。</p> <p style="margin: 10px 0;">以上より、審査員4名全員が博士学位論文審査及び最終試験に合格したと判断した。</p>	